

第3章 環境指標の把握と評価

第4節 地盤沈下



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 三郷市議会議長賞 南中学校 篠原 来実 さん

第 4 節 地 盤 沈 下

1 地盤沈下調査

(1) 地盤沈下変動量

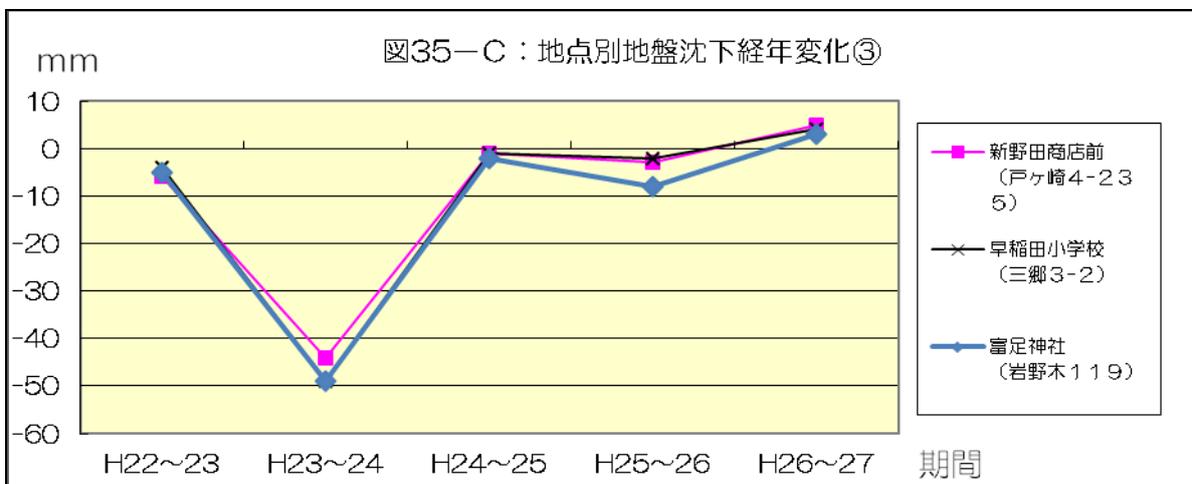
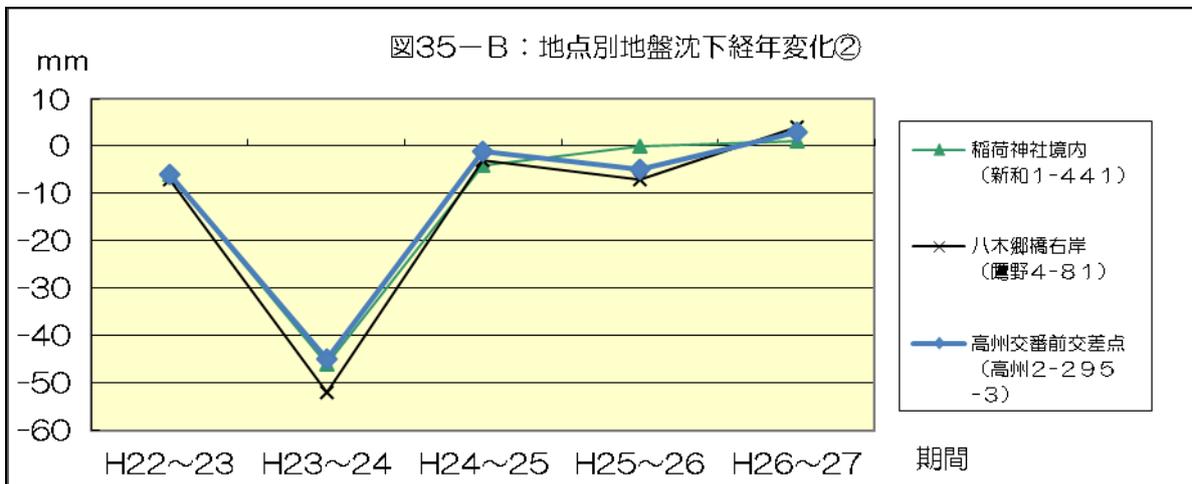
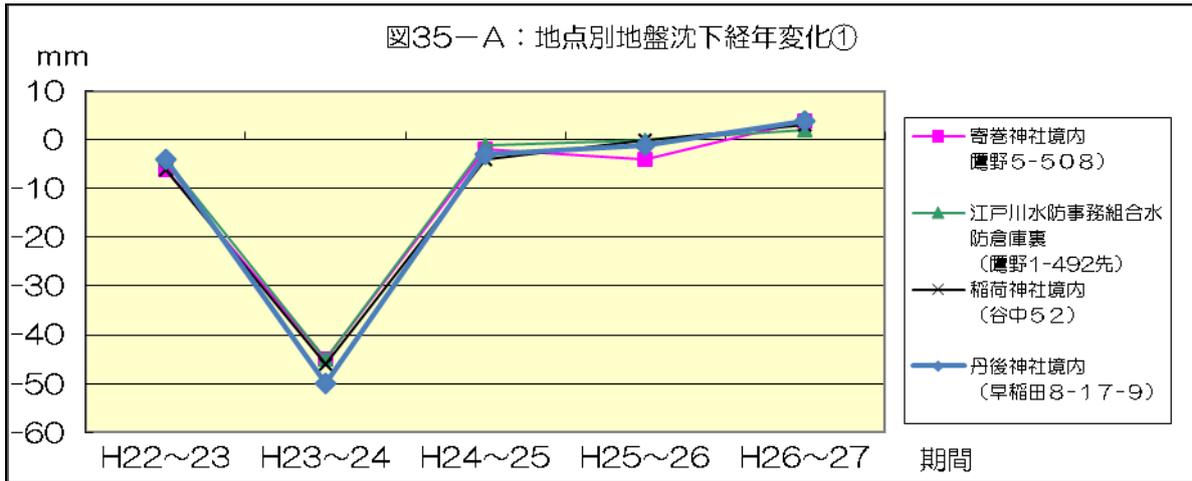
三郷市の地盤沈下に係る調査は、埼玉県が市内 10ヶ所の地点で測量調査を行なっている。その調査結果は表 32 及び図 32-A・B・Cのとおりである。

地盤沈下変動量 [単位：mm] (表 32)

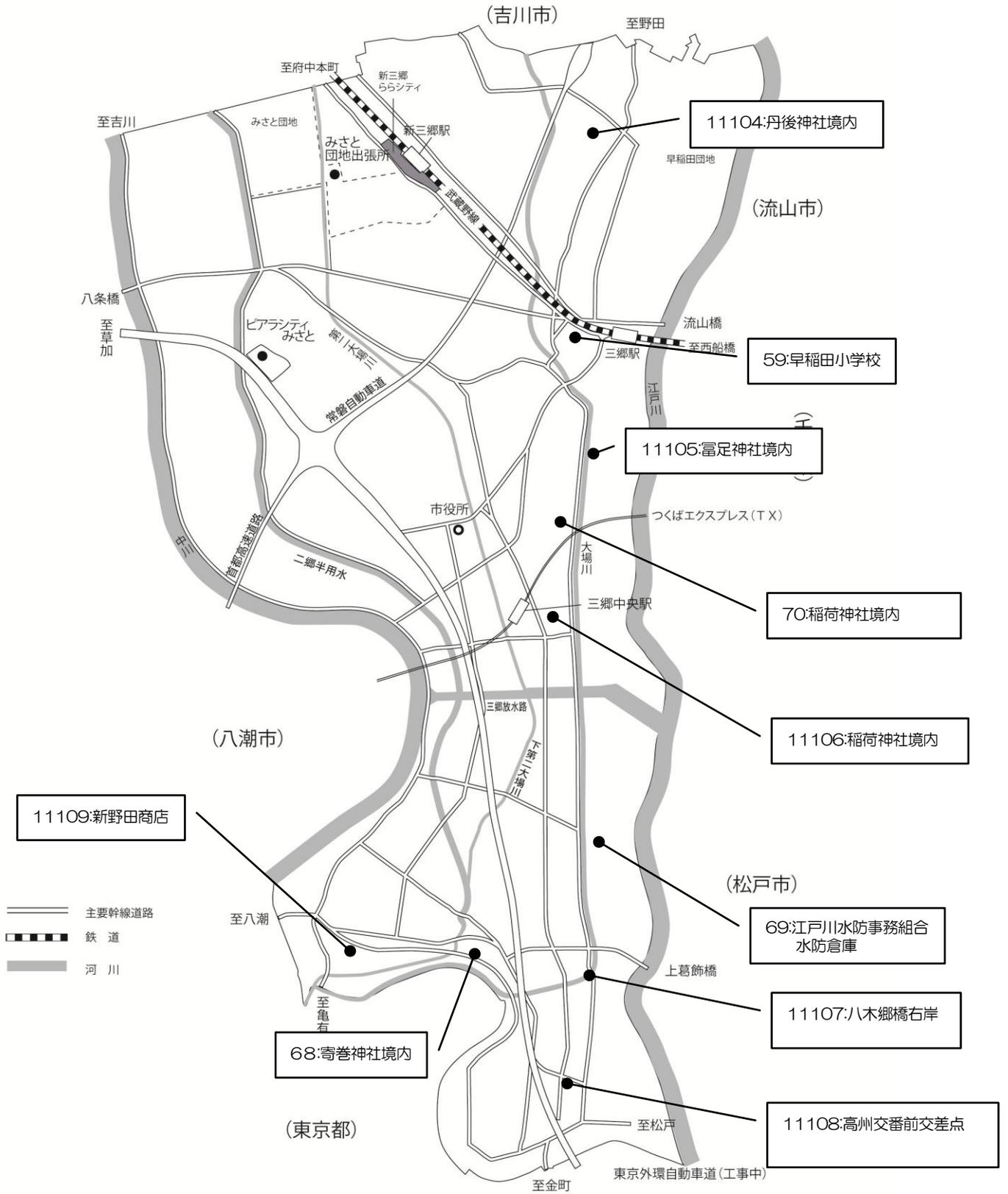
(埼玉県地盤沈下調査報告書)

基準番号	目標・所在地	調査開始	調査開始時の真高	H24~25	H25~26	H26~27	過去5年間の変動量	調査開始からの変動量	H26.1.1の真高(m)
68	寄巻神社境内 (鷹野5-508)	S36.2.1	2,750	-2	-4	+4	-51.6	-974.4	1.7530
69	江戸川水防事務組合水防倉庫裏 (鷹野1-492先)	S36.2.1	2,041	-1	0	+2	-47.9	-910.3	1.6470
70	稲荷神社境内 (谷中52)	S36.2.1	2,360	-4	0	+3	-53.9	-1001.9	1,3339
11104	丹後神社 (早稲田8-17-9)	S36.2.1	2,672	-3	-1	+4	-53.7	-127.6	2.5203
11106	稲荷神社境内 (新和1-441)	S36.2.1	2,980	-4	0	+1	-54.8	-1023.3	1.9332
11107	八木郷橋右岸 (鷹野4-81)	S36.2.1	2,371	-3	-7	+4	-66.3	-777.3	1.5701
11108	高州交番前交差点 (高州2-295-3)	S36.2.1	3,295	-1	-5	+3	-54.0	-423.8	2.6091
11109	新野田商店前 (戸ヶ崎4-235)	S36.2.1	2,645	-1	-3	+5	-48.3	-802.8	1.8203
59	早稲田小学校 (三郷3-2)	S58.1.1	2,380	-1	-2	+4	-51.9	-43.2	2.3125
11105	富足神社 (岩野木119)	S36.2.1	3,295	-1	-5	+3	-60.6	-227.0	3.0268

※過去5年間の変動量は、それぞれ各年度の変動量について、小数点以下も含めた実数を合計した後、各年度については再度小数点第1位で四捨五入しているため誤差が生じている箇所もある。



(2) 地盤沈下測定地点図



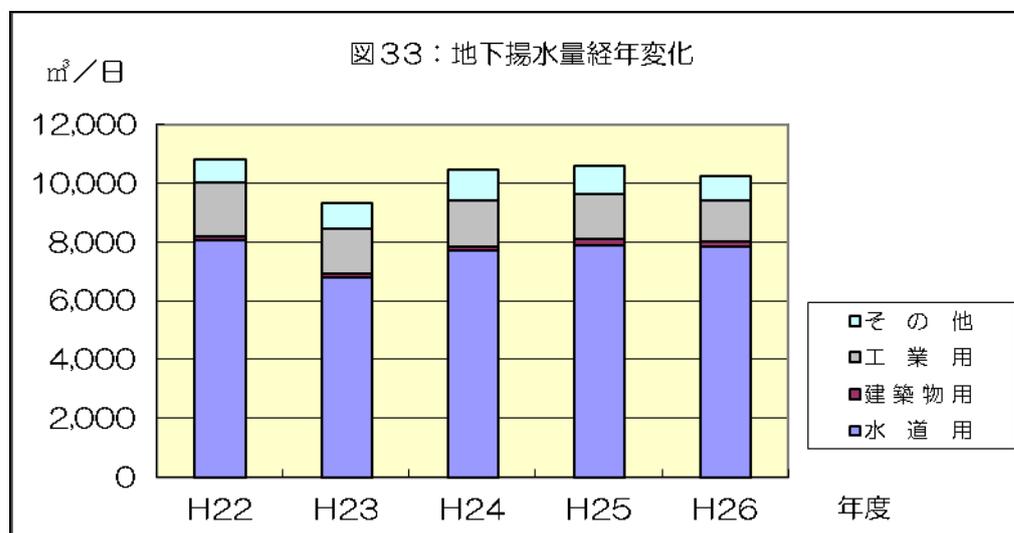
(3) 地下水揚水量

平成 26 年度の地下水揚水量は、表 33 及び図 33 のとおりである。水道用 7,859m³/日、工業用 1,413m³/日、建築物用 170m³/日、その他 828m³/日で、計 10,270m³/日である。前年度に比べて各項目とも減少した。

地下水揚水量全体では、324m³/日の減少であるが、過去5年間（図 33 参照）の経年変化は、ほぼ横ばいである。

地下水揚水量経年変化（表 33） [単位：m³/日]

項目・年度	24年度	25年度	26年度
水道用	7,719	7,918	7,859
建築物用	141	182	170
工業用	1,582	1,549	1,413
その他	1,034	945	828
計	10,476	10,594	10,270



第3章 環境指標の把握と評価

第5節 苦情処理状況



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 JAさいかつ賞 丹後小学校 佐野 花凜 さん



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 栄和化工賞 桜小学校 茂木 紬 さん

第 5 節 苦 情 処 理 状 況

苦情処理の概要

平成26年度の苦情処理件数（表34及び図34参照）は、年間で87件あり、このうち、典型7公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭）についての苦情が37件、その他が50件である。

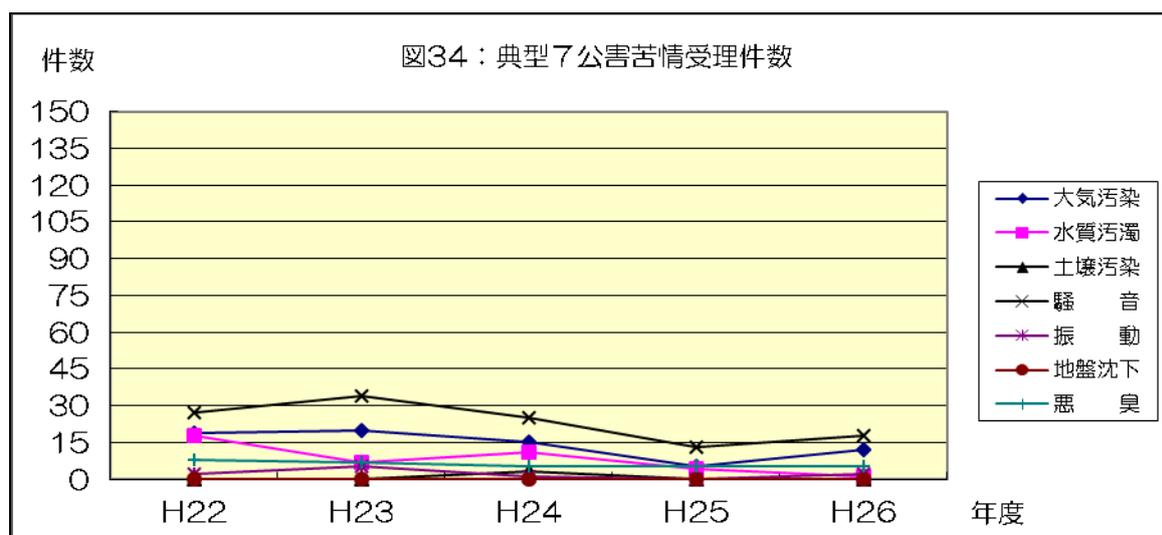
近年では、騒音と振動等の複合型公害の苦情が増加している。
その他の苦情については、ほとんどが雑草の繁茂による苦情である。

年度別苦情処理件数 [単位：件] (表34)

項目・年度		24年度	25年度	26年度
典型7公害	大気汚染	15	5	12
	水質汚濁	11	4	1
	土壌汚染	3	0	0
	騒音	35	13	18
	振動	1	0	2
	地盤沈下	0	0	0
	悪臭	5	5	4
その他	59	38	50	
合計	119	65	87	



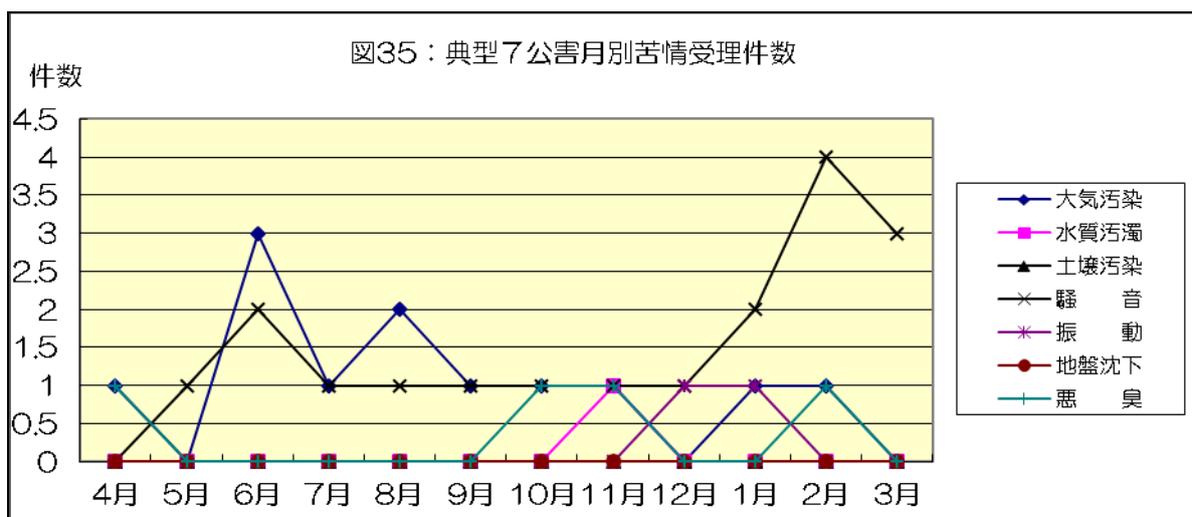
野外焼却の現場の様子



平成26年度の月別苦情処理件数（表35及び図35参照）をみると、6月から10月くらいにかけて苦情が多く、冬期には少ないという傾向がわかる。前年に比べ、水質汚濁に係る苦情は減少したが、大気汚染に係る苦情は増加したという結果であった。

平成26年度月別苦情件数（表35）

項目・月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大気汚染	1	0	3	1	2	1	1	1	0	1	1	0	12
水質汚濁	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
土壌汚染	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
騒音	0	1	2	1	1	1	1	1	1	2	4	3	18
振動	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
地盤沈下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
悪臭	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	4
その他	0	4	7	12	11	1	11	1	0	1	2	0	50
合計	2	5	12	14	14	3	14	5	2	5	8	3	87



第3章 環境指標の把握と評価

第6節 ダイオキシン類



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 IKEA新三郷賞 新和小学校 笠井 颯希 さん



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 生活協同組合コープみらい賞 高州小学校 菅田 七海 さん

第 6 節 ダイオキシン類

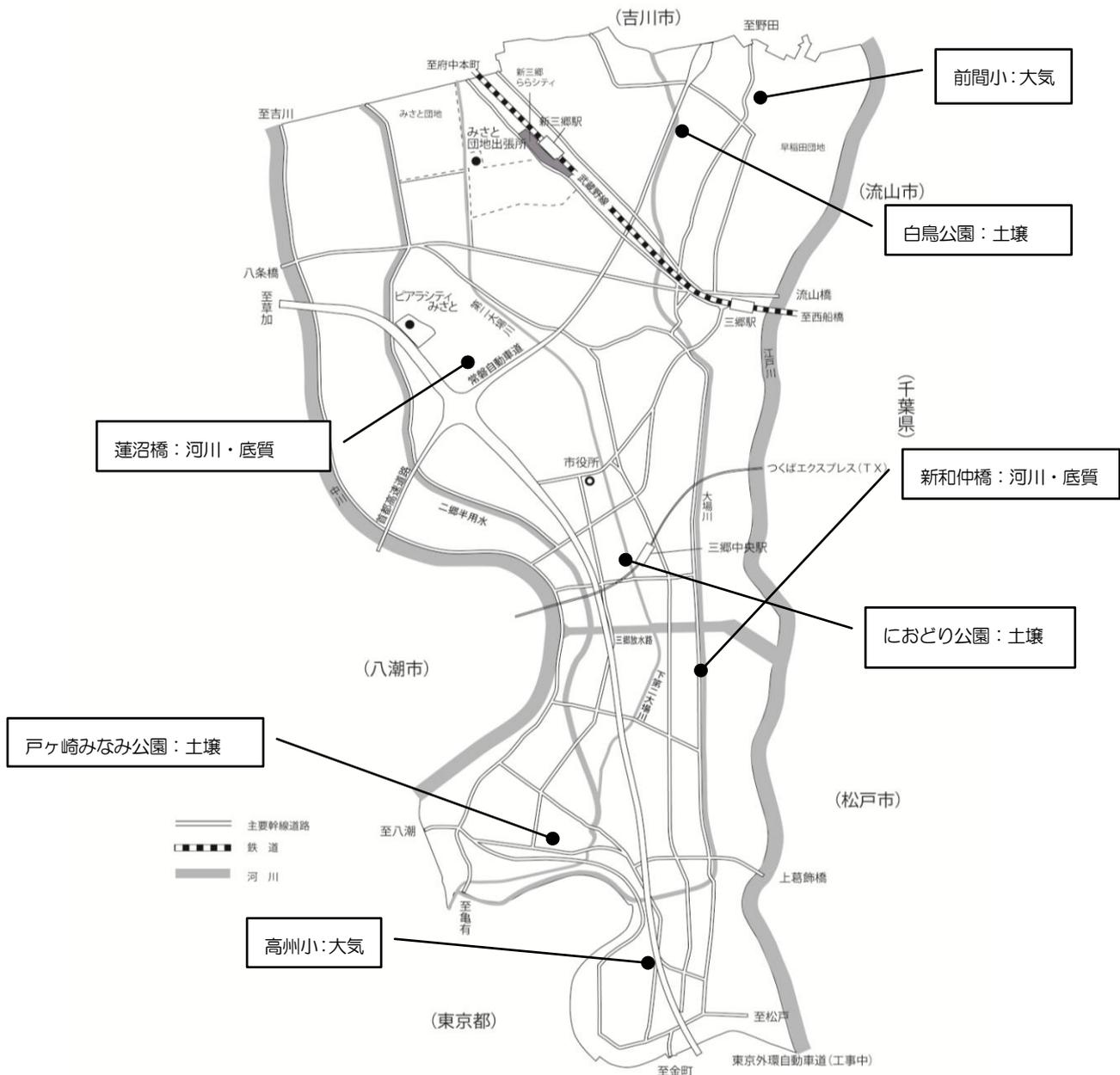
1 環境基準等

(1) 環境基準等

環境項目	単 位	環境基準値
大 気	pg-TEQ / m ³	0.6
土 壌	pg-TEQ / g	1,000
河 川 水	pg-TEQ / ㍓	1
河川底質	pg-TEQ / g	150
耐容1日摂取量	pg-TEQ / 体重kg / 日	*4

注：pg（ピコグラム）＝1兆分の1

(2) ダイオキシン類測定地点図



2 ダイオキシン類の調査

(1) 大気の測定結果と評価

平成26年度は、大気中のダイオキシン類調査を2地点で各2回行なった。その調査結果は表36のとおりである。2地点の年平均値は、いずれも0.046pg-TEQ/m³であり、季節により値に開きはあるものの、環境基準を下回っている。

大気におけるダイオキシン類の環境基準(0.6pg-TEQ/m³)と比較して、今年度の数値は2地点とも下回っている。

H26年度・ダイオキシン類(大気)測定結果

[単位: pg-TEQ/m³ (ピコグラム)] (表36)

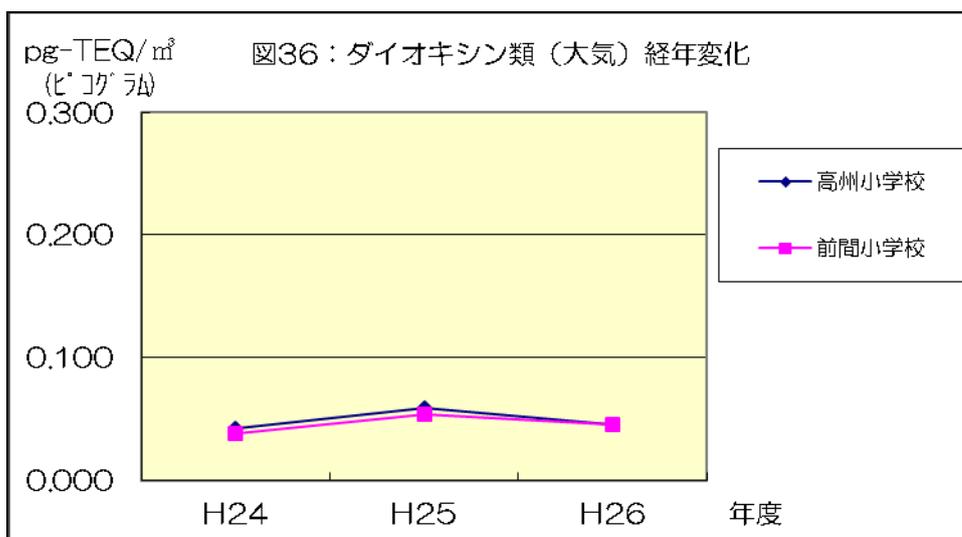
地点・年月	H26 7/28~8/4	H27 1/19~1/26
高州小学校	0.022	0.070
前間小学校	0.018	0.074



分析機関での分析の様子

ダイオキシン類(大気)経年変化 [単位: pg-TEQ/m³ (ピコグラム)] (表37)

地点・年月	平成24年度	平成25年度	平成26年度
高州小学校	0.042	0.059	0.046
前間小学校	0.038	0.054	0.046



(2) 土壌の測定結果と評価

平成 26 年度の土壌中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 38 のとおりである。数値は 1.2~3.9pg-TEQ/g となり、3 地点の平均値は 2.8pg-TEQ/g となる。

土壌中におけるダイオキシン類の環境基準値 (1,000pg-TEQ/g) と比較すると、測定値は大きく下回っている。

ダイオキシン類 (土壌) 経年変化 [単位: pg-TEQ/g (ピコグラム)] (表 38)

地点・年月	H24	地点・年月	H25	地点・年月	H26
におどり公園	0.017	におどり公園	3.4	におどり公園	3.9
さつき平 のぞみ公園	2.8	さつき平 ふれあい公園	0.0037	戸ヶ崎 みなみ公園	3.4
				白鳥公園	1.2

(3) 河川底質の測定結果と評価

平成 26 年度の河川底質中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 39 のとおりである。調査場所は、大場川及び第二大場川のそれぞれ 1ヶ所を調査し、平均値は 8.1pg-TEQ/g であった。

河川底質中におけるダイオキシン類の環境評価については、環境基準 (150pg-TEQ/g) との比較では、それぞれの調査地点において低い値であった。

ダイオキシン類 (河川底質) 経年変化 [単位: pg-TEQ/g (ピコグラム)] (表 39)

地点・年月	H24	地点・年月	H25	地点・年月	H26
大場川橋 (大場川)	2.2	大広戸橋 (大場川)	35	新和仲橋 (大場川)	7.4
第二彦糸橋 (第二大場川)	15	幸和橋 (第二大場川)	8.5	蓮沼橋 (第二大場川)	8.7

(4) 河川水の測定結果と評価

平成 26 年度の河川水中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 40 のとおりである。調査場所は、大場川及び第二大場川のそれぞれ 1ヶ所を調査し、平均値は 0.48pg-TEQ/l であった。

調査地点 2 地点中 2 地点とも、環境基準値 (1pg-TEQ/l) 内であった。

ダイオキシン類 (河川水) 経年変化 [単位: pg-TEQ/g (ピコグラム)] (表 40)

地点・年月	H24	地点・年月	H25	地点・年月	H26
大場川橋 (大場川)	0.61	大広戸橋 (大場川)	0.92	新和仲橋 (大場川)	0.31
第二彦糸橋 (第二大場川)	1.00	幸和橋 (第二大場川)	0.12	蓮沼橋 (第二大場川)	0.64

